

事業概要説明書 [1]		事業番号	1 - 1 3		
事務事業名	つくる漁業の振興事業	担当部名	農政部		
事業開始年度	平成 3 年度	担当課名	森林水産課		
実施方法	直営	担当係	水産係		
根拠法令等	—				
事業の概要	目的 〔 何のために 〕	<p>漁業を取り巻く環境は、燃油の高騰、環境の変化による漁獲量の減少、後継者不足による高齢化など厳しい状況におかれています。種苗（稚魚、稚貝）の放流は、積極的に資源を増大させるとともに、漁獲増大につながる手段として、沿岸資源の回復と漁業者の経営の安定に寄与するものです。</p>			
	対象・手段 〔 誰(何)に対して、何をするのか 〕	<p>① アワビ稚貝、親カサゴ、親イセエビ、ヒラメ稚魚を購入し、漁協の協力のもと、禁漁区域へ放流します。 【平成22年度実績】アワビ 22,635個 青島、野島地先 親カサゴ 500尾 (100kg) 内海地先 親イセエビ 560尾 (222kg) 青島地先 ヒラメ 8,000尾 (24kg) 青島、白浜、一ツ葉ビーチ沖</p> <p>② 幼稚仔育成施設の維持管理 青島漁港内にある市所有の「幼稚仔育成施設」の適正な維持管理を行うとともに、稚魚・稚貝の中間育成、蓄養施設として活用を図ります。</p>			
	事業の必要性	<p>市民等のニーズは多様化しており、新鮮で安全な鮮魚等の水産物を安定的に供給することが求められています。一方、漁業者においても経営の安定向上を図るうえからも、資源の減少は深刻であり、その対策に取り組む必要があります。</p>			
コスト	平成23年度(予算)		人件費		
	直接事業費 (A)	2,800 千円	職員構成	概算人件費 (平均給与×従事職員数)	従事職員数
	人件費 (B)	2,250 千円	正規職員	2,250 千円	0.3 人
総事業費 (A+B)	5,050 千円	嘱託員	0 千円	0 人	
平成23年度 直接事業費内訳	<ul style="list-style-type: none"> ・ 稚魚等購入費等 2,000千円 ・ 幼稚仔育成施設維持費 393千円 ・ 宮崎県水産振興協会負担金 340千円 ・ 旅費等 67千円 				

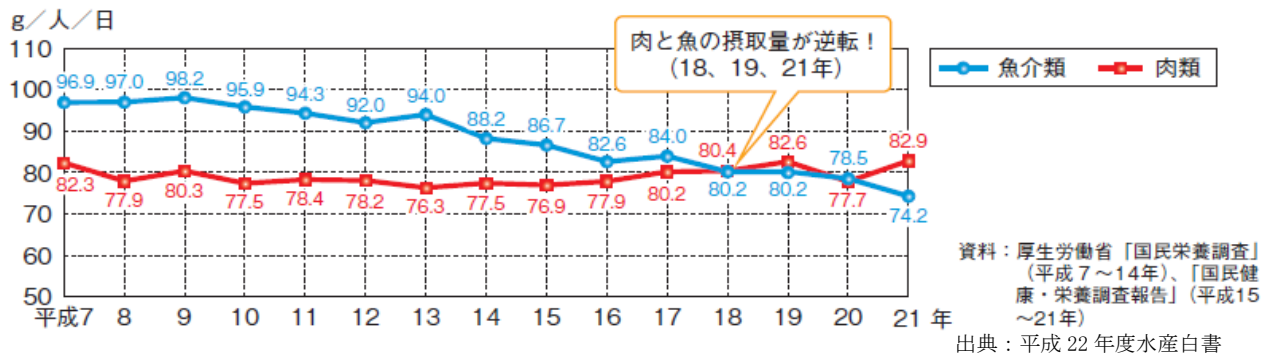
事業概要説明書 [2]		事業番号	1-13		
年度		平成22年度(決算)	平成23年度(予算)		
直接事業費		2,528 千円	2,800 千円		
財源	一般財源	2,528 千円	2,800 千円		
	受益者負担金	0 千円	0 千円		
	その他	0 千円	0 千円		
成果目標 〔 どういう状態を目指すのか 〕	アワビ、イセエビ、カサゴ、ヒラメ等の放流による資源の増殖を図り、漁獲量の安定により漁家経営の向上を推進します。				
成果実績 〔 成果目標の達成状況等 〕	[状況]	想定した成果を得ている			
	[説明]	農林水産省の基本方針に基づき、全国で放流事業に取り組んでいます。宮崎県の資源回復計画においては、資源が回復しているという結果が出ています。また、稚魚等の放流事業と併せて漁業者自らが禁漁区域、漁獲期間の設定等を行い資源の保護にも努めています。平成22年度の漁獲量落ち込みは、カサゴ以外の魚種が豊漁だったために漁獲量が減ったこと、堀切峠下のイセエビ等の好漁場に座礁船が放置され漁ができなかったという特殊要因があったものです。			
成果指標 〔 事業の実績及び目標 〕	指標名 (下段:指標の説明)	単位	数値 (上段:目標 / 下段:実績)		
			平成21年度	平成22年度	平成23年度
	放流魚種の漁獲量 (カサゴ)	kg	3,000	3,100	3,100
	市内漁協の漁獲量		3,341	1,849	
	放流魚種の漁獲量 (イセエビ)	kg	30,000	30,000	33,000
宮崎市漁協の漁獲量	28,136		25,705		
事業の方向性 〔 事業の現状と課題、今後のあり方等 〕	水産資源の減少が年々進んでいることから、「つくり育て管理する漁業」を推進するため、引き続き本事業の取り組みが必要です。				
特記事項 〔 参考情報等 〕	<ul style="list-style-type: none"> ○親カサゴの禁漁区放流については、卵胎生であるカサゴの生態から稚魚の生存が見込めるため放流魚種として取り扱っています。 ○「水産動物の種苗の生産及び放流並びに水産動物の育成に関する基本方針」農林水産省 平成22年12月24日策定 ○宮崎海域カサゴ資源回復計画(H17~H21年度)宮崎県農政水産部水産政策課 ○第2期宮崎海域カサゴ資源回復計画(H22~H26年度)宮崎県農政水産部水産政策課 				

つくる漁業の振興事業補助資料

【水産業の現状】

本市の水産業は、日向灘に面し沖合を流れる黒潮や恵まれた地形により好漁場が形成され、一本釣、底びき網などの漁業が行われ、沖合漁業ではマグロやカツオ、沿岸漁業ではシラス(ちりめん)、イセエビなどが水揚げされています。しかし、水産業を取り巻く環境は燃油の高騰、消費者の魚離れ、魚価の低迷、後継者不足、高齢化など非常に厳しい状況が続いています。

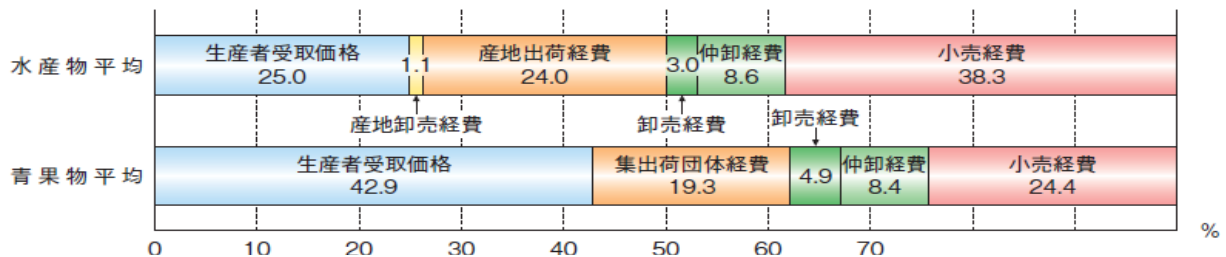
図Ⅱ-1-3 国民1人1日当たり魚介類と肉類の摂取量の推移



水産物は、水揚げが天候や資源状態に大きく左右されるため生産量の変動が大きい、少量かつ多品種の魚が漁獲される、同じ種類の魚でもサイズや鮮度により用途が異なるといった特性を有しています。

また、鮮度保持のため冷蔵が欠かせず、販売の際には切り身や刺身に調理する必要があるため、青果物と比べて小売経費の割合が高く、生産者受取価格の割合が低くなっているのが特徴です。

図Ⅱ-2-11 流通段階ごとの経費の内訳(水産物、青果物)



出典：平成22年度水産白書

【市内の漁業協同組合の位置】



つくる漁業の振興事業

1 目的

獲る漁業から「つくり育てる漁業」への転換を図るため、アワビや種イセエビなどの放流を積極的に実施し、資源管理型漁業を推進する。

2 事業内容

- ・アワビ稚貝、親カサゴ、種イセエビ、ヒラメ稚魚の放流
- ・中間育成施設管理

3 放流量・放流箇所

魚種	放流量	放流場所
①アワビ稚貝(個)	22,635	青島、野島地先
②親カサゴ(kg)	100	内海地先
③種イセエビ(kg)	222	青島地先
④ヒラメ稚魚(尾)	8,000	青島、白浜、一ツ葉ビーチ沖他



【参考資料】

「宮崎海域カサゴ資源回復計画」に則ったカサゴ資源の現状と今後

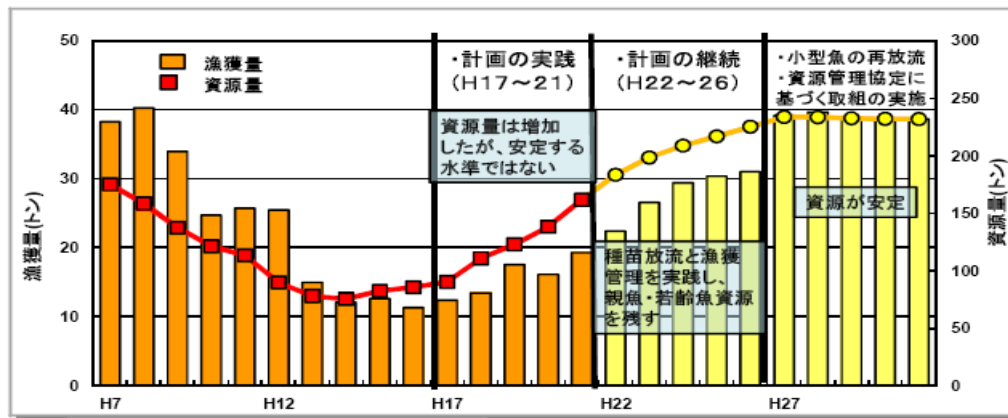


図5 資源管理効果の将来予測

出典：宮崎県水産白書

放流魚（ヒラメ）水揚高推移

(単位：千円)

年度	16	17	18	19	20	
漁協	一ツ瀬	1	352	138	1,293	52
	檳浜	17	56	133	361	204
	宮崎	60	92	110	90	79
	宮崎市	1,002	226	161	2,588	1,126
計	1,080	726	542	4,332	1,461	

出典：宮崎県漁協漁場整備課資料(翌々年10月公表)